

駒井哲郎氏が逝って10年になる。その追悼展、銀杏樹展が6月3日から丸の内画廊で開かれる。

昭和49年夏「版画科設置促進協議会」(仮称)のもとに大学の版画関係者が集り、協議を重ねた結果11月に「大学版画研究会」の発足を見る事が出来た。

大学版画研究会、会報第1号の表紙に「大学版画研究会は日本の美術大学に版画教育の進歩発展をはかることを目的とする」と鮮明な旗印を記している。翌、1977年2号会報は駒井哲郎追悼を乗せている。女子美、芸大、多摩美に版画の道を開いて来た駒井氏が漸く各大学に版画専攻コースの出来始めた時彼は逝ってしまった。

あれから10年、美術大学での版画は年々さかになり、大学版画展も外国との交流を始め、参加校も36校をこえ会場に苦勞する盛会さである。目的も美術大学に版画科の設置をと言う単一なものから、版画の性格上もっとも良い位置づけは何かを模索しながら多様化している。女子美の版画科誕生もその一つであり各大学の情報、研究交換でも大学版画研究会の果して来た役割りは大きい。

以前にも書いたが、大正7年山本鼎、織田一磨、戸張孤雁、寺崎武男により「日本創作版画協会」が創立された。その目的は従来複製的に考えられていた版画を創作として生かし、発揚するためにあり優れた創作版画を生むことに期待した。その運動方法として、作品展覧の外に官展に版画を受理せしむること、美術学校に版画科を設置せしめること、及び版画知識の普及にあった。

昭和6年日本版画協会設立にあたって、会長岡田三郎助は、次のような主旨を発表している。

「日本版画協会設立主旨」

日本が夙に版画国として世界に知られたことは、今更説くまでもない事実であります。然るに明治に至り洋風文化を移し国運隆盛の望みすべき進歩に拘らず版画は却って萎微振わざること久しいものがありました。之を遺憾として大正7年日本創作版画協会が成立するに及び、漸く本邦版画の甦生を見るにいたり、以後歳々隆盛の域に達しつつありましたが、更に進んで往年の盛名を改にすべき機運を醸成する必要があるものでもあります。

惟ふに世界の版画に於て、新らしき日本の占む

べき位置は、その永き習練と民族的特性に由来する優秀に依って当然高かるべきを信ずるものであります。茲を以て今や国際的に本邦版画を展開することは国内に於ける版画の発展と共に、吾々版画に携わるものの責務たることを信じ、右の目的に依る版画家の大同団結を以て協力一致、本邦美術的版画の向上発達を計ると共にその世界的発展に向って努力せんとするものであります。

本協会の為すべき所は甚だ多々あるべきであります。先ず、国際版画展覧会の開催及び、東京美術学校版画科新設の促進であります。前者に於ては茲に再説するを要しないと思ひます。後者に於ては日本が世界に類例なき板目木版の技法を有するに拘らず、現在官立美術学校に版画科の設置なきは甚だ遺憾なるものと信じます。即ちその設置によって世界に独特なる美術学校を日本は所有し得るのであります。その他官設展覧会に於ける版画の充実、版画の社会的普及、新作発表及び研究的展覧、後進の誘掖等の実行を以て前述の目的の達成を念ずるものであります。

大正7年の創作版画協会創立の目的、および昭和6年の日本版画協会設立の主旨は、大きく版画の振興、普及であり日本画、洋画、版画、彫刻と言う独立したジャンルの確立である。今日、版画は普及し、先輩の願ったごとく各美術団体も版画部があり、東京版画ビエンナーレ展は国の主催する唯一の国際展であることを考えると、美術学校に於ける版画科のみが今が実現されていない。

先般岡本道雄氏の主催する「臨時教育審議会」からの諮問が有った折り、美術大学に版画科設置要望書を提出した。美術大学の中で版画はどのように有るべきか各大学でそのよりよい位置づけを模索しつつも、版画科設置は絶えず要望して行く必要がある。

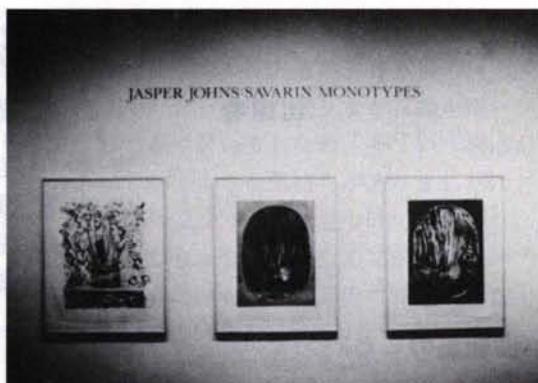
これが実現した時初めて、大正7年以来多くの先輩達が一貫して熱望したものが実現するので、それは単に美術大学の関係者のみの問題ではなく、日本版画協会を中心とした日本の版画家達にも又日本美術全体のテーマでもある。明治以来の美術教育の歪みを正し、これからの新しい美術教育の体系を作る上でもっとも重要なものとなるだろうと確信している。

森野真弓

モノタイプは従来、特別な場合を除くと、複数性を問題にする版画の範疇にふくまれにくいいため、中途半端な技法として、あまり高い評価を得なかったように思う。しかし、恩地孝四郎がモノタイプに近い刷りの方法で、新しい感覚の木版画の世界を開拓したことや、駒井哲郎がモノタイプによる作品を数多く試みていたことは周知の通りである。たまたま、文化庁の研修期間中にN.Y.で、いくつかのすぐれたモノタイプの作品に触れる機会があったので、報告をかねて、その可能性について再考してみたい。

モノタイプは、プレスを使ってインクを紙に転写するため、版の概念と結びつきやすく、一方では整版などのプロセスに煩わされずに、直載なイメージが展開できる利点がある。たとえば、RICHARD SMITHは、ローラーを使って色面を構成したり、筆のタッチを生かしたモノタイプで、迫力のある幾何形態の大きな平面作品を発表していた。版画とくらべると整版、刷りのコストも安く、かなり大型の作品制作が可能であり、N.Y.には、こうしたモノタイプを刷れる大型のリトプレスを備えた工房が多い。OLDENBURGも、大型銅版画「ねじ式のアーチ橋」(61×130cm)を制作する過程で、モノタイプによって大ざっぱな着彩刷りを何種か試みてから、色彩を決定している。

だが一般に、モノタイプは細かな描写表現には向いていない。画面に微妙な変化をつけるためには、レース、木葉、羽毛、網目などを押し型に使ったり、雑誌などの印刷物をカラージュスするか、スクラッチによる工夫が必要である。モノタイプとは異なるが、CHUCK CLOSEの指紋(Finger Print)を使った肖像画シリーズは、指先につけたスタンプインクの濃淡の階調を、効果的に顔の陰影に生かして制作したもので、これもペインティングに版の考え方をとり入れた、一種のモノタイプの変形ともみられる。



しかし、モノタイプの魅力は、何といたってもドローイングの効果である。アメリカの作家たちは、完成したリトグラフの版画などに、アクリル、パステル、水彩、チョークを使って加筆したり、カラージュスをして、版画の枠から踏み出した新しいドローイング作品を自由に制作してしまう。しかし、この柔軟な感覚が、版画を単に複製や量産のための手段とする傾向から救っているように思う。J. JHONSの「SAVARINシリーズ」のモノタイプの発表作品をみると、むしろドローイングに近い発想がある。プラスチックガラスに色インクで描画をくりかえし、リトプレスで刷りとった後に、さらに残ったインクを利用して加筆したり、ガソリンの反応効果を使った自在なイメージの連作をみると、モノタイプが版による独自の表現と、ドローイングの中間にあって、触媒のように働いているプロセスが見透かされて興味深い。

PRATT GRAPHIC CENTERでは、レンブラントからピカソまでのモノタイプの歴史を解脱し、伝統的な技法について検討したり、着彩や写真の技術を使った実習などを内容とするモノタイプの講座を設置して、Papermakingとあわせて、版画の解釈を拡げることで、新しい表現の可能性を学生に与えようとしている。それはモノタイプをひとつの版画の技法として、単純に認知してしまうのではなく、むしろ版画を絵画の思考にフィードバックさせる可能性をもっている。

最近、とくに複雑になった版画の素材や、専門化されたプロセスに対して、作家自身による手の介入が容易なモノタイプの方法は、版画の教育などにも生かせる部分があるのではないかと思う。

インタビュー 《小野忠重先生を囲んで》
PART.2

出席者 小野 忠重
吉本 弘
山本 富章
設楽 知昭
加藤 茂外次

〈回顧展のこと〉

山本—こう、先生が陰刻法に関わって、そういうようなプロセスっていいのか、それまで移って来たってというような意味を、今、伺ったんですけれども。昨年の伊勢丹の回顧展ですね……

小野—うん。

山本—それなんか、こう一堂に並べてみられた機会ってというのは、その時初めてだったんでしょうか？ それ以前にもそういう？

小野—いや、初めてですよ。大体、あたしはそんな、回顧展をやるなんて事は頭にありませんでしたからね。だから今までやったことなかったですよ。偶然、そんな時期になってね。

ええ……画廊は、あの、リュウ画廊ってのがね、その企画の主体ですけどね、池袋のリュウ画廊ってのがやってくれたんですよ。

山本—あの、先生のお手持ちの作品だけじゃなくて、いろんな所蔵家とかから、もちろん寄せ集めて、小野—いや、あれはね、あの場合はね。殆どあたしのとこから出したんですよ。

あのなかで、例えば、ここの版画の教室に、ほら、色がもう褪めちゃって、青い色だけになってるけれども、あの、ほら、工場街の絵⁶があるでしょ、あれの実物は、東京の近代美術館にあるんですよ。その試し刷りは、新聞紙に刷ったやつがあるんですよ。そういう時に、ほら、新聞紙なんか使ってたね。これは伊勢丹展に出しました。

吉本—あつ、なるほど。試し刷りに使われてたわけですね。

小野—そう、そう。

山本—あの、そういう一堂に並んだ先生の、御自身の版画というものを見られてですね、伊勢丹で。こう、何か特別な感慨というものがありましたで

しょうか？ 変な質問かもしれませんが。

小野—いや、特別なっていいことはないけれども、やっぱり、なんてかつまり、何か生活を……。出して行きたいなという気持ちは、まあ、根底にあることは確かですねえ。

山本—それは、あの、自分を。例えば、取り巻く環境すべて含めて生活とか？

小野—そうそう、そうですね。

〈モスクワからローマまで〉

山本—それと、先生が、美術出版で編集の仕事にたずさわるようになったってというような、そういうような事から、こう、先生がいろんな本を、編集されていますよね、版画に関して。

小野—ええ、自分の著とか編として出すのは少し後ですが。

山本—石版の日本に伝わって来たものであるとか。いろんな。或いは、浮世絵の流れであるとか。

小野—そうそう。

山本—最近では、社寺のおふだであるとか、そういうような、いろんな、広範囲にまで。それは生活というものを……

小野—うん、まあ、それもありますけれども、さっきもお話したように版画っていうものをね、やっぱり、あの……つまり、今の時点で、やっぱりまあ、縦にも横にも見ていきたい、といったわけですね。当然ね。

それがねえ、あまりにもね、なんていうかね、あの、筋違いになってね、いるってというような事をね。で、もっとやっぱり、遡ってね、やっぱり注意されなきゃいけないんじゃないかって、謂わば版画の歴史をね、やっぱり確かめて行かなきゃいけないんじゃないかなって気持ちね、そういう気持ちが働いてるってということからですね。

分かってもらうって一つ一つの作業としてね。そういう事が必要だろうっていうのもって、まあ、やってたわけですね。

だから私が、あの……、ヨーロッパに行った⁷ 機会なんかも、まあ、その以前からやってた事ではありますけれども、版画の、殆ど戦時中からね、僅かな語学力で……、翻訳なんかをやりました

けどね。そして、あたしなりに、だいぶ確かめて行ったことがあるんで、そして、そういうものを見たいなっていうんでね、あの、ソ連に呼ばれて、日本の版画の、なんていうか、現代の展覧会をやるから、その謂わば、説明役として呼ばれて行ったわけです。

だけでも、ソ連だけで行って帰って来たのじゃね、私としてはね、残念なんでね、どうかあの、ひとつヨーロッパを回らせてくれってね。関係者に何度も頼んだ。初めは何とも云わなかったですけども、もう、何度も、何度も頼んでね、一番最後の日になってね、もう帰るって最後の日になってね、

小野さん、日本大使館と、オーストリア大使館に行きなさいってね、言ってくれたんですよ。

で、初めて、あの、オーストリア経由でヨーロッパ回りが出来るんだなってことが判った。

そして、オーストリーのウィーンから始まってね、あの、ミュンヘン、スイスのバーゼル、ハイデルベルク、マインツ、ライン川を下ってケルン、アムステルダム、アントワープ、パリ。

パリに居る間に、ロンドン行って、又パリに戻って、イタリアへ行って、ミラノ、ベネチア、フィレンツェね、ピサ、ローマ、ナポリ、またローマに戻って、ローマから日本に帰った。そういう経路をとったわけですね。

殆どその間は、まあ、私なりに、つまり版画の歴史を追求する、現代の向うの版画の状況をね、作家の状況を深るっていうことがね主体だったわけです。それなりに、あたしなりに勉強したわけです。吉本—それは、お幾つぐらいの？

小野—それ、まだ、50代でしたな。

張り切っていましたよ。はっはっはっは……(笑)
やっただですよ。

吉本—美術手帖で、世界美術館めぐり……

小野—そうそう。

吉本—あれ出したのは、その産物ですね。

あれだけがね、留学生のたよりだった時代がありましたからね。

山本—それで、ヨーロッパの、その当時の、さっきおっしゃった版画の現状っていうんですか、そういうようなものは、小野先生にとって、どういう印象だったんでしょうか？

小野—そうですね、まあ、その頃でも既に日本に

さ、例えば、マチウだとか、何ていったかなあ、変な抽象的な絵かきが来て。あの、日本橋の白木屋のショーウィンドーの中で踊りながら絵を描いたりなんかしてるのがいましたね、そういう奴ばかりなのかっていうような気持ちがありましたけどね、そうじゃないことを、私は見つけてきました。

ヨーロッパでも、つまり、なんてかなあ、リアリストは居るんだというね、写実の作家が居るんだという事が、胸にこたえましたよ。

その頃は、もう向こうでは、作家として出ていたんですけども、私は、その以前には知っていなかった人に、例えば……あの、イタリアのほら、ジローニだとかね、その他に何人か居ましたけどもね、そういう人とは会っていませんけどもね。

うーん、あの、ベスピニア—なんて作家とはね、ローマで会いましたよ。作品を交換しましたよ。ええ。いい作家ですよ。

随分図々しい話しですよ、言葉もろくに出来ないのに(笑)手まねでもってやるんだからね。中学生の片言の英語ぐらいのもんでね(笑)やっただから、ありゃもう実に図々しい話しですよ。それでも、何んとかかんとか通るもんですよ。山本—それでこう、ヨーロッパを回られたっていう事がですね、一つは、美術館めぐりでしたっけ、それはまあ、文章かもしれませんけれども、そういう形で残りましたよね。

小野—うん。

山本—それと、その旅行の実際の体験みたいなもの、そういうようなものが、小野先生の、例えば版画であるとかそういうようなことに、何か影響を及ぼしたというようなことはあったんでしょうか？

小野—それはね、今申し上げましたけどもねえ。例えば、あの、何もかも自分の行く手の仕事だというふうな考え方で、あの、抽象絵画などを、摺むって仕事、これは決して、やるべき事じゃないというぐらいいは頭に刻み込まれましたな。

山本—これは、いわゆる、写実っていうか、版画っていう……

小野—貴いものだって思いましたよ。

山本—それを重視するっていう……

吉本—その頃っていうと、マチューが来た頃っていいますと、結局、抽象だとか具象だとか、あの、

盛んに言われてた……

小野—そうですね、あの……

吉本—ロルジュとか、モッテとか、

小野—あの、サロン・ド・メエがね、紹介された頃ですからね。

吉本—そうですね。

小野—当時、戦後の日本の美術批評はあげて抽象べったりでしたが、だけどねえ、少しねえ違うんじゃないだろうかなあって云うような疑問を、あたし持ってましたけどね。ヨーロッパへ行ってみたら、やっぱりそういうことが、あの……ピタリと合ってね。うん、なるほどなあと思ってね。

〈芸大で教えたころ〉

山本—それと、東京芸大でも木版を教えられ……

小野—ええ。

山本—それから、うちの愛知でも長くにわたってお世話になっているんですけども。ある意味で専門家になろうとする人間ですよ。

小野—うん、うん。

山本—そういう若い人達と接触した事っていうのは、何かありましたでしょうか？

小野—そりゃまあ、例えて云ったらね、あたしはね、あの、あたしなりに数えたという事になるか……。当人が自覚するか、教えられたというふうな自覚があるかどうかは、これは別問題としてね。やっぱり、あの、当人が、いい仕事をやってるなってふうと考えられたのは、あの……東京芸大の範囲内だとねえ、例えば、今ここの先生になっている磯見輝夫さんね、これは立派です。それから、消息が、最近では、聞かれなくなったけれども。沖縄の大学の先生になった神山泰治さん。あの人なんかいいと思いますねえ。

だけども、木版からシルクスクリーンに変わった野田哲也さん。別な形で持って、あの、自分で、シルクスクリーンの……仕事を開拓してっただから、私は、これも一つの行く道だと思って、認めているんです。けれども、この版に写真技術を使う技法に、変につかまえられ過ぎてるといような感じはするけれども、この人なんか、まあ、仕事してるなっていう気持ちがしています。

私はね、それらの人達には、大いに敬意を表してるんですよ。

神山泰治さんがやってる時分には、私、判らなかったけれどもね、沖縄に、ああいう斗鶏の古い絵があるんですね。それはねえ、あの人なりに解釈してやっていたんだという事が、そのずっと後でね、何かテレビで、沖縄の古い絵をやっているのを見たんです。ああ、神山さんよくやってるなって気がして、その時ね、胸にこたえましてね、早速手紙出したんですよ。返事は貰えなかったけれどもね。(笑)

〈広重は、日本のレンブラント〉

吉本—太田美術館の話なんかも、ちょっとお伺いしたいんですけども。

小野—太田美術館の話ってのはね、それはこん中にある……

(手許のバックを開けて中から年表とメモを取り出して)

これでねえ、あの、日本にキリシタンの布教活動が始まる。それでそれから始まって、そして禁止になる。禁止になって、そして新しく江戸の司馬江漢の名前がどっかにあると思いますけれども、

(年表を示しながら)

司馬江漢の時分から、新しく洋画がね、始まるという頃から、再燃してゆくというようなね、流れとして、そして明治の時代に入ってくるというその年表なんですよ。これはね。まあ、スライドも通して話をしたんですけども、云いたい事っていうのは、ここには具体的に出ないかもしれないね。

例えば、あの……広重っていう作家がいますね。広重の場合、広重と北斎とを較べると、あの……北斎の方がね、非常に、こう、意欲的で、そして例のほら……神奈川沖波裏なんてのは、波が、こう、ずうっと上がってきて、そして、船がその中に小さくなってっているようなね、ああいうような描きかたをするけどもね、あの……広重の場合にはね、ま、ここにスライドがあるんですけどもね、スライドは別として、

広重の場合、これが絵の枠だとすると、枠の外にね、東海道五十三次で富士山にいちばん近い所

は、沼津の一つ先の宿場の、原ですよ。そこがね、一番やっぱり富士山に近い所になるんですよ。ここでは富士山を、こう、仰ぎ見なくっちゃならないでしょ。そうするとね、普通の枠よりもね、外へ、枠の外へ、こう富士山の頭を出して、広重は描いてるんですよ。

なんてかな、真面目さっていうかね、くそまじめなところがね、広重にはあるんですよ。そういうような事がずーっと浸透して行って、そして洋画の影響……つまり洋風なものの方、それがです。ね日本の絵に取り入れられてゆくということはね、やっぱり北斎以上に、広重が徹底していたという事がね、良く解かると思うんです。とくにこの東海道の原宿の絵を見てね。

そういう事がね、一転して、ヨーロッパへ作品が行った場合にね、ヨーロッパの人達は、日本の……。

今でこそ、あたし、東京芸大で先生やってた時に、日本に来て勉強するんだったら、水墨画だっているようなことでもって、随分勉強してる人が居ましたけれどもね。

やっぱり、むこうの人として、日本の版画家に感激したのは、あの、広重が一番最初なんですよ。ホイッスラーなんかの影響を受けるでしょ。ああいうことがね、この流れを見ていくと初めて判ってくるんですよ。そういう事を説明するのが、この……日本の版画とヨーロッパっていうようなね、この一連の話題なんです。

直接に、版画とむこうの版画、それから、むこうの絵とこっちの絵というふうな……。版画に、直接でなしに、絵から、また日本の版画になっていく、或いは、日本の版画に影響するとか。或いは、むこうから日本の版画でなしに、中国の版画に影響していく、そして、中国の版画が日本に入って来て、そして日本の版画に影響を与える。

例えば、応挙ですね。応挙の場合には、西洋が影響した中国の版画から影響された例です。それから、例えば、この吉本さんがお持ちになった芥子園画伝ね、これなんかもやっぱり、写楽を早くに認めたドイツの研究者クルトなどによると、ヨーロッパの銅版画が中国に影響を与えたとしています。

出して見て下さい。あの第二巻の、風景画のところ。色刷で出てるのがあるでしょ。

(芥子園画伝を繰りながら、探す)

あっ、そうそう、こういうような所をね、
こういうような行き方ね。

こりゃやっぱり銅版画のね、影響があるんです。吉本—あ、そうですか。

小野—濃淡の扱い方ね、銅版画の影響があるんです。そうやってくると確かにね、ヨーロッパの銅版画がね、影響を与えている。芥子園の出る頃になれば、ヨーロッパの銅版画が中国に入るのはもちろん、中国でも宣教師の活動などから銅版が作られています。

そして、これが日本に又影響を与える。日本でね、中国の版画をお手本するんですから。

つづいて、江戸の後半期は蘭学の時代ですから、だれも知る司馬江漢が、オランダ語の百科辞典でエッチングの作り方を知ったり、オランダで出た〈職人づくし〉でさまざまな外国人画題を残すし、谷文晁はオランダ本の動物図譜で見たこともないサイの絵を描くことにもなります。しかもそれが、そもそもデューラーの1515年作の木版が原作（直接の拠所はヨンストン動物図譜・銅版本）ですから、興味は尽きません。

だから、ぐるぐる、ぐるぐる、こんなにひねくれているかも知れないけれども、そういうものがずうっと伝わってくるわけですよ。

だから、あたしはね、広重が出た時にはね、日本に初めてレンブラントが出た。

レンブラント以前の、ヨーロッパでは、遠近法、パースペクティブってものがね、ただ機械的な図法だった。

レンブラントはね、そうじゃなしに、野外写生をやって、そして自分の眼でもって遠近法を確かめて、そうして描くようになっているんですよ。最後はみんなそうなるんだから。ヨーロッパではね。

だから広重はね、日本ではね、遅れてるけどもレンブラントの時期にあたる人だっているふうに、あたしは解釈してるんですよ。

〈カイエダール〉

設楽—話は前後しますが、戦後、美術出版社に入られて、洋画技法講座、その編集をされるなかで、

あの、色々な方との取材で、実際にこう、仕事……絵を描いてらっしゃるところを御覧になったりして、どんな方が印象に残ってられますか。

小野—さあねえ、ほとんどねえ、まあその時分仕事をしていて、……名の知れた方はね、ほとんど全部会ってますよ。安井さんとか、梅原さんとか、うーん、まあ……あの系統では、新制作の系統では、小磯さんとか、猪熊弦一郎とかね。え……。一水会では石井柏亭とか、とにかく洋画技法講座に出て来た人とはみんな会ったんだから。

そしてその途中で、あの、美術手帖という雑誌がね発刊され、……創刊されたんですよ。で、美術手帖っていうのは、さき程もちょっとお話ししたと思うけれども、あの……、伊藤廉先生の、こんど寄贈された本の中にカイエダールという雑誌があると思いますけどね。

カイエダールっていうのは、訳すと、美術の手帖っていう題名になる。それを訳して、美術手帖って題名にしたんです。だから、それが発刊された頃はね、よそへ頼んだ原稿もあるけどもねえ、内輪の原稿はね、あたしが全部書いた、内輪で、どうせそのたいした原稿料も払えませんかね、内輪で原稿を書いてね、質疑応答なんて、欄を作ってね、自分でなにやら質問し答えを出したりなんかしてね、やった。そんな時期があったわけですよ。

それで、また、作家生活に入っていかなきゃいけないんだなあ、っていうような……。

まあ内輪の事を話すと、まことにしみつたれたことになりますけどもね、子供が結核でね、とうとう18で、女の子ですけどもね、死んじゃったんですよ。そういう事があってね、なかなか思い切ってやめる事が出来なくてね。そしてようやく、そうだなあ……まあ、何年後だったかなあ、やめて、まっさきに、まあやっぱり自分の……東京っても広いからね。今住んでいるのは杉並ですが。

あたしの生まれて育ったのは向島ですからね。だいたいその下町の方へ、しょっちゅう、美術出版社やめた時点でもって、出かけて行ってはね、スケッチしたんです。ちょうどね東京……東京都がねえ、どんどんこう、街が、変わって行く最中でした。まだ昔の姿が残ってましたからね、あたしにとっては懐かしいんでね、そこいらの所をま

あ、描いたりして。随分スケッチブックがありますよ、こんなになってますよ。

(椅子に座った肩の辺りまで手を上げて)

そういう時期があったわけです。

山本—それと、取材っていうのか、絵の取材もあると思いますけれども、版画のいろんな資料を収集するために、ほぼ全国を回られたんじゃないかと想像するんですけども。

小野—うん、

山本—そういう原点っていうのか、先生をそういうふうに動かしているものは、もちろん版画を、先ほど仰られました、版画っていうものを、こう、理解させるっていうんですか、

小野—うん、

山本—それは、まあ、自分の創作のエネルギーにもなり得るような、そういうものが今まで続いて来ているっていうのは、やっぱり、版画っていうものを何とかしなきゃっていう、一番最初の……起点っていうのか、そういうものが現在まで延々と続いているわけですね。

小野—そりゃそうですね。あの、だけどねえ日本全国を歩くというのはねえ、むしろね、ヨーロッパへ行って、帰って来てからね、特に、国内旅行はよけいしましたね。

山本—逆に日本を見つめ直してみたいな、

小野—ええ、そうそう、見直そうという気持ちかね、起りましたね。その以前としてはね、そんなに方々へは行ってません。殆ど、東京都内がせいぜいだったですね。

吉本—こちらにいらしたときには、朝早く、例の黒い紙でスケッチなさってましたね。

小野—非常に楽しんでやってるんです。

吉本—そうですね……

山本—お話しも尽きないようですが、そろそろ遅くなりますので、このへんで……

吉本—それでは、今日は、どうも有難うございました。

(注) 「工場街の絵……」⁶

工場街(1935) 近代日本の版画展(奈良県立美術館)のポスターが、木版教室に貼ってある。

「ヨーロッパに行った」⁷

1961年、ソビエトで初めて開かれた、現代日本版画展の際、ヨーロッパを回る。

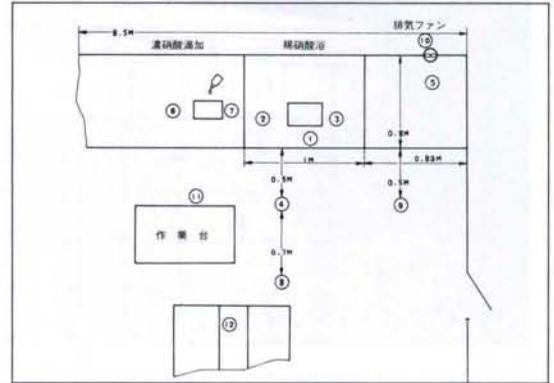
銅版腐蝕槽の研究

池田良二

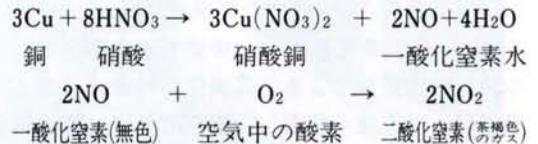
武蔵野美術大学では昭和60年授業においては版画科を設置していないが、造形学部を中心として集中実習方式をとっている。受講生の多くは銅版面に触れるのは初めてであり、短期間に技術を修得し、各自の作品の制作に入らなければならない為に、腐蝕時の使用頻度が高く、液の濃度を一定に保ちにくいという、ガスの発生しやすい状態に以前はあった。私自身、昭和56年、文化庁在外研修員として滞英した折に銅版画の間接技法での制作途上の危険性、有毒性について、研修先の工房主の死で銅版画作家の健康上に腐蝕設備が重要なことを痛感した。同地で見学した他の工房、大学も充分なものではなかったがその中では Wimbledon School of Art の腐蝕槽の研究は参考になった。これらの問題点は時を同じにて我校の版画研究室の研究テーマであった。銅版画実習室 (186.3m²) の硝酸 (HNO₃) Nitric Acid 液によるバット腐蝕時の窒素酸化物の分析測定を昭和58年9月に木村熱経済研究所に依頼し現状を調査することからスタートした。測定結果から検討し、濃硝酸滴加槽時に4~800ppmの蓄積があり、制作の作業台周辺では4ppm以下で、人体の影響は急激には顕れないが流し周辺では高酸度で危険である。

銅版画実習室の窒素酸化物の濃度の測定は室内21℃、湿度34%、腐蝕液(23ボーム)2バット中に銅版4枚エッチング処理中で12ヶ所で床からの高さ、

改良前試料採取位置平面図 (参考図A)



腐蝕バットからの距離を変え試料空気を採取した。希硝酸腐蝕液で銅版を腐蝕した場合、ガスまたは溶け出す物質、沈澱物とその性質は下記の通りである。



分析方法は亜鉛還元ナフチレンジアミン法で算出

- Vs: 試料ガス採取量 (ml)
- t: Vsを読んだ時の周囲の温度 (°C)
- Ps: 大気圧 (mmHg)
- Pv: t°Cにおける飽和水蒸気圧 (mmHg)
- n: 分析用試料溶液の希釈倍数
- V: 検量線から求めた二酸化窒素の体積 (ul)
- C: 窒素酸化物の濃度 (ppm)
- C': 窒素酸化物の量 (cm³/Nm³)

$$C \text{ の計算式: } C = \frac{nV}{Vs \times \frac{273}{273+t} \times \frac{Pa - Pv}{760}} \times 1000$$

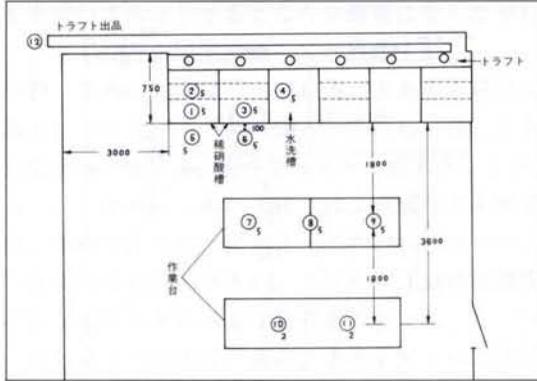
$$C' \text{ の計算式: } C' = \frac{21 - On}{21 - Os} \times Cs$$

On: 施設ごとの残存酸素濃度 (%)

参考図A

試料各所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
床よりの高さ (m)	0.7	0.7	0.7	0.2	0.7	0.7	0.7	1.5	0.1	0.8	1.5	0.9
窒素酸化物濃度(ppm)	110	210	260	4以下	140	230	800	4以下	12	16	17	4以下

改修後試料採取位置平面図 (参考図B)



Os: 排ガス中の酸素の濃度 (%)

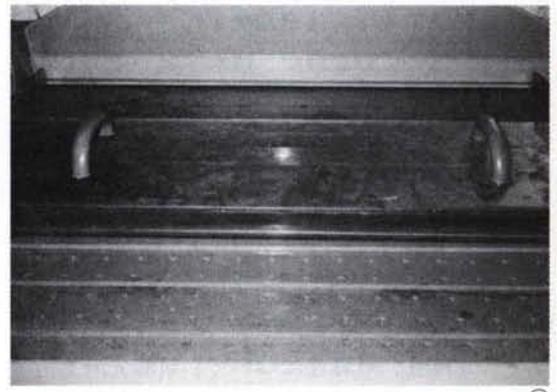
Os': 窒素酸化物濃度の測定値を排ガスNm³中の量 (cm³) に換算したもの。

結果から1日8時間の制作活動した場合、人体への硝酸の影響点は(勧告許容濃度10ppm 許容濃度5ppm 抑制濃度2ppm) 労働省安全衛生部監修危険有害物便覧によると高濃度の場合、皮膚、粘膜、目、鼻を強く刺激し、歯牙酸蝕症、肺水腫を起こすことがあり、二酸化窒素では慢性気管支炎、胃腸障害、歯牙酸蝕症、不眠症等を起こす

化学反応を利用した銅版画の間接技法の有害性は明確であり、教育場として下記の様な対策と改良に重点をおいた。従来の移動式バットを固定し(写①)塩化ビニールで製作し、透明塩化ビニールの蓋が密栓状になり、ガスの流出から制作者が吸入を避ける為と版の出し入れを版の大きさに合わせて蓋の調整が出来る。密栓時は吸入口の力で腐蝕液に波状が発生し、水素の気泡の除去が自然に出来る(写②)860×700×300Hの希硝酸腐蝕液の荒腐蝕用(depth etch 主に深さを得る目的で高濃度25パーメの槽)と860×700×300Hの修整腐蝕用(Tineting 調子の修整を行う20パーメの槽)版を洗い大量の水を使用できる流しに水道と自在シャワーを備えた。(860×930×300H)流し台は穴あき箕子で水捌けと、掃除の為に取り外し自由にし、



①

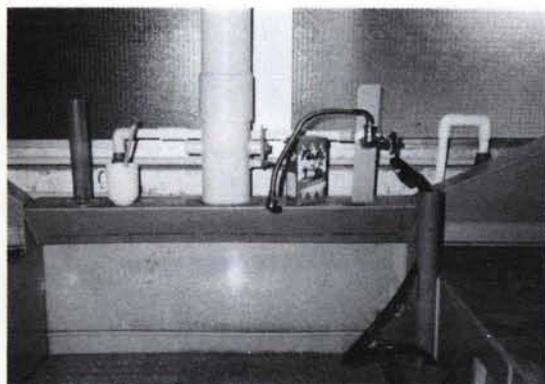


②

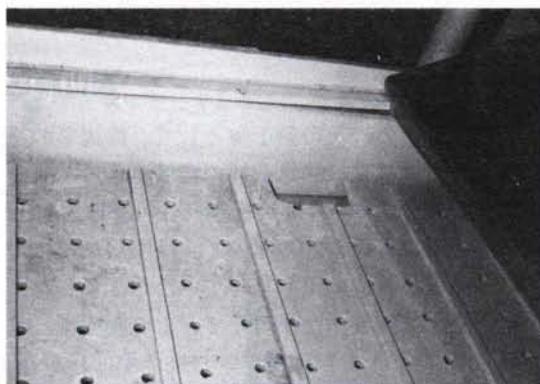
前方、後方、水平の三通りに使用でき洗版場の少量のガスは吸入孔からダクトに続く(写③④)大型作品の制作用の(160×860×300H槽)と附属流し台(930×860×300H)塩化第二鉄液(過塩化鉄液FeCl₃ 640×830×150H槽)を備えている。強性換気にはダクト300Gにシロッコファン風量60m³/min 静圧(40mAg)200V 0.75KW 4極切替(写⑤)6ヶ所(4腐蝕槽、2流し台)からダンパーによる開↔閉 自在で使用槽のみの換気も出来る。(写⑥)又、電源にタイマーをセットし夜間の換気を行う。(写⑦)各腐蝕槽について、詳しく述べるならば300Hの深さの腐蝕槽は二重底で制作時の問題点の1つの冬季の液温の低下の解決として塩化ビニールパイプを各槽に廻し、循環ポンプによりヒーターであらかじめ、調整された温水を廻し、

参考図B

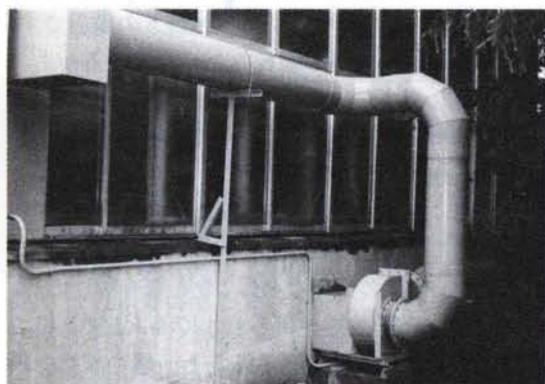
試料各所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
床よりの高さ(m)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	3.0
窒素酸化物濃度(ppm)	5以下	5以下	5以下	5以下	5以下	5	5	5	5	2	2	25



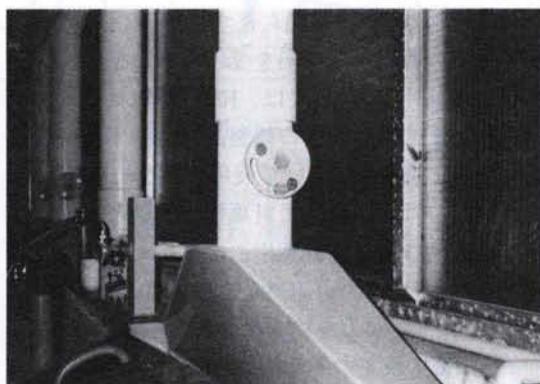
③



④



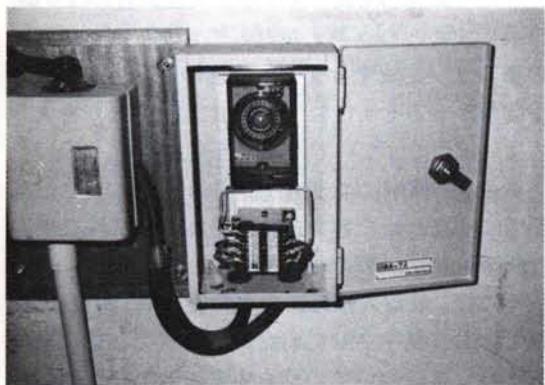
⑤



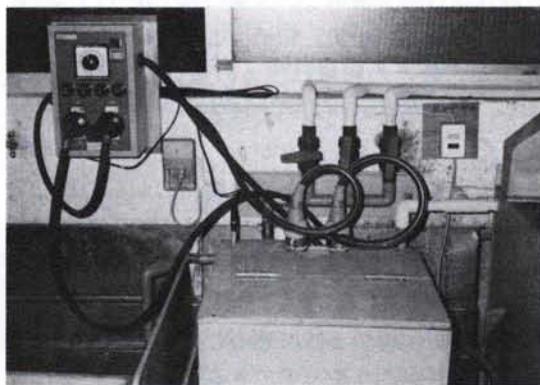
⑥

使用槽のみも使用可能にしている。希硝酸の発火は塩化ビニールパイプの為に安全で濃度、液温を一定することにより時間差による腐蝕例を実習生が習得できるようになった。(写⑧) 各槽の液の交換、掃除は二重槽下部の二回路の塩化バルブでの開閉操作で簡単に作業が出来る。これらの要点を改修後、銅版画実習室の窒素酸化物の濃度を再び測定を分析した結果、9 P(下)参考図⑧のようになった。

9 P(下)参考図⑧のように改良は明らかであるが現在も実習生に保護具として耐酸ゴム手袋、不浸透性の作業エプロンの使用を指導している。現在、使用不能の第二塩化鉄液は処理業者に依頼しているが汚水処理のための浄化槽の設置等についても今後の研究テーマとして、武蔵野美術大学版画研究室の課題となっている。



⑦



⑧

特種製紙株式会社見学記

園山晴巳

今回は、紙の研究の第1弾として、静岡県の三島市にある特種製紙株式会社の機械漉きの工場を見学することになり、特種製紙の長谷川課長さんと、技術研究所の宮脇さんの案内で、版画用紙だけでなく、洋紙の製造過程も見せていただきました。

私達が、版画制作に使用している版画用紙（ラグ紙）は、ほとんどが機械漉きの紙です。しかし、実際にはどの様にしてコットン原料から紙を漉いているのかは、あまり知られていません。それで、まず原料の段階から説明を受ける事になりました。原料のコットンについては、100%が海外から輸入されていますが、日本の綿製品は、必ず何パーセントかの化繊が入っていて使用できないそうです。パルプ材には、広葉樹と針葉樹の2種類の原料があり、高級な紙には針葉樹のほうがよいそうですが、その多くはやはり海外から輸入されています。原料段階とは、これらの素材を離解（繊維の分散）、叩解（繊維の長さの調節）、貯槽、調合（サイズ剤や糊材や顔料投入）、除塵、までを指しています。紙質の良否は、この段階でほとんど決定され、特に、叩解の部分で繊維の長さをなるべく長く一定させるのがむつかしく、薬品の種類も紙の中性を考慮していないと、変化、劣化の原因になるそうです。この紙の中性度については、近年たいへん問題になり、特種製紙が版画用紙の開発に乗りだしたのもこれが発端のひとつだそうです。現在白い紙を作るために漂白剤を使用しない紙はほとんど無いと言ってよく、これをさけるためには非酸性漂白剤を使用し、大量の水で洗うことが最良といわれています。和紙もこの条件が必要なのですが、最近の和紙は、この条件が満たされてなく、質が落ちているのではという意見が聞かれました。そんな話をしながら、ふとパルプが叩解されている槽をのぞくと、豆腐のおからの様な状態になっていて、思わず指でつまんでみると温かく、フカフカしていて食べられそうでした。事実そうやって叩解具合を調べるそうで、やはり最後は、人の感覚が一番かと妙に感心してしまいました。

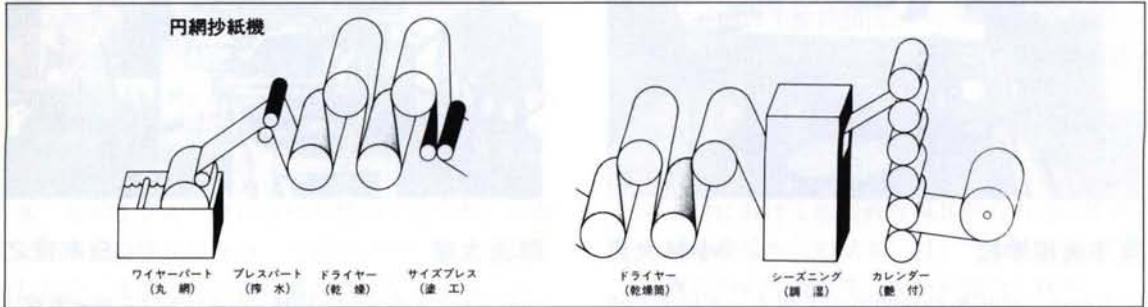
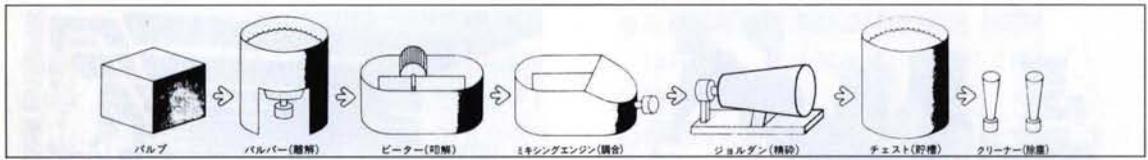
さて原料がこうやってできると、いよいよ抄紙



段階ですが、これがいわゆる機械漉きの場面です。これまでは、手仕事の延長みたいところがあった、理解しやすかったのですが、抄紙のマシンは丁度製鉄所の圧延部門に似た何10メートルもの長さがある機械で、その前に立つと、圧倒されてしまい、説明にもフンフンと答えることぐらいしかなかった有様でした。ただ、大まかにいうと、網と毛布が紙を漉く直接の材料なのは、今も昔も同じで、コンピューターや、放射線厚み計まで導入してあっても、基本的に漉く原理は手漉きと一緒にした。網と毛布によって、連続的にひっぱり出された原料は、厚みを調節するローラーを何本も通ります。さらに搾水ローラー、乾燥ローラー、塗工加工といった巨大な金属ローラーを何本も通って調湿されて、最終的には身長ほどもありそうな直径のロールに巻き取られるのです。絵描きの感覚ではちょっとついていけないようなオートメーションシステムです。最後に女性の社員が、一枚一枚丹念にゴミやムラを検査しながら、不良品をはねているのを見て、これも何か機械で行なったらという、そういう検査器もありますが、人間の目のほうが、確かですよという答えが返ってきました。版画紙の場合は、完成するまでに普通のスピードの倍の手間がかかるそうです、経済的には、あまり身入りのよいほうではないですよと苦笑されていました。

紙漉きの機械には、長網式と円網式とがあり、三島工場には合わせて8台あり、それぞれ特殊な用途の紙ばかりが、製造されていました。

その後、最新式の機械や水処理設備、研究所と、ひととおり見学させていただいた後で、応接室にもどり、紙についての話をすることになりました。



単刀直入に技術者として、紙は何が一番よいですかと聞くと、やはり和紙材料のためずきが、紙としては一番ではないかということでした。ただしこれをごらんさないといつて、全国の和紙の変色テスト表を見せられ、想像以上に紙が変色しているのには、驚いてしまいました。原因は河川の汚濁が進行し、材料の供給源である山林が枯渇したためです。明治以降に、経済的理由および材料の入手困難などで、和紙の質が下降気味になりつつあり、先程の変色に限っていえば、全国の美術品用和紙で、変色テストに合格できたのは、わずか3種程度でした。特に版画用の紙の中には、ひどい物もあり、和紙をありがたがる風潮も化学的には、どうかという面もあるということでした。確かに温度の2段階テストにかけてみると、ある和紙の中には、最初白かったものが、一段階目のテストで、いっぺんに茶色ほく変色してしまい、私も考えさせられました。原因は、やはり紙の中性を無視した晒し方と、薬品混入にあります。自然色に見えても晒した後、さらに染めてあるものもあります。染料を使った場合、特に変質するとのことでした。要約すると、洋紙も和紙も酸性紙のほうが経済的であるし、染めやすく、作りやすいそうです。和紙といっても、現在公文書に使用されている機械漉き和紙等は、せいぜい気休め程度であるという厳しい判断でした。

日本で紙の中性度が問題になり始めたのは、ここ2、3年のことです。現在使用されている輸入版画用紙も、中性度といった面だけで見ると、決して中性であるとはいえないそうです。また使用されている状況を考えると、せっかく良質な紙も

何日もため置いた水に入れてみたり、不用意にドーサ引きをしたり、ペニヤやボール紙にはさんだりしては台無しで、使用者側も少し注意を払って下さいとの意見には、私も思い当るふしもあり、大変反省することとなりました。資料室で昔の本や紙を見ながら、紙質の重要性をあげられて、酸性紙は、後年必ず分解消失する運命にあり、保存という面では、危うい作品がこれから増えるのではということでした。紙は、その国の文化のパロメーターといわれます。版画紙のみならず本や、その他の保存すべき用途の紙は、やはり使用者も注意を払うべきだと思います。

そうやっている内に、すっかり時間が過ぎてしまい、もっと聞きたい事はありましたが、またの機会にということになりました。最後に資料室で、いろいろな紙の見本や本を見せていただき、紙の各種テストに使われる技術研究所の温度テスト室や、高湿度室、電子顕微鏡室を廻ってから、工場を後にしました。現代は、多様な化学物質が存在します。水さえも昔の状態とはとてもいえず、人間の生活に密接に結びついた紙は、日々改良が加えられる運命にあり、制作に当って、使用される紙やインク、その他の材料もクロスオーバー的にあつかわれる時代です。その点からも、紙やインク、その他の材料について、感覚だけで判断するのではなく、化学的に分析する客観性も、判断材料に加えるべきではないかと強く感じました。しかし同時に、作者と紙の出会いは、数値的なものとは別に、何か本能的なものが、結局は支配するのも事実だと思いながら、ふと中国の祭倫のことが頭に浮びました。



東洋美術学校

小林次男

本校は、学生数約1000名のデザインと絵画の専門学校である。その中に絵画研究科版画専攻が設置されている。まだ版画専攻が開設されて3年目で学生数も1、2年合わせて10名、版画教官6名といった人員構成になっている。

版画専攻の授業は、1年次にリトグラフを始め、シルクスクリーン、銅版画、木版の4版種を各5週間単位で履習する。この期間はそれぞれの基本的技法を学ぶのが目的で、学生自身独自の絵を発見するまでの訓練期間でもある。

版画以外にはドローイングのほか、日常に数多く存在するあらゆる美について版画技法にとらわれない視点と発想を導き出す授業として、造形演習という科目を設けている。そのほかいくつかの科目があるが、これらの繰り返しにより、内に籠りがちな版画という分野を広い視野から見つめ考えてゆく事を目的としている。2年次になると今までに履習した事を基に自由に制作ができる。前期8点、後期5点の作品を提出することで卒業となる。もちろん定められた作品数は最低ラインであって、個々のペースによって年間制作点数は変わってくる。前期1回、後期2回に分けて版画教官全員でこれら提出された作品を1点1点批評してゆく。

版画教育に必要な機材、教官、スペース等の不足と、まだまだ不十分なのが現状であり、諸大学と比較されると規模の点からも対称に値しない位であろう。しかしそれなりに現代美術の中で版画という表現の手段を自分の内で再確認し生かしてゆけるものと確信している。



筑波大学

白木俊之

おおかたの他大学と同様、筑波における版画教育は絵画の一部分として行われている。1、2年生では共通的な基礎教育を受け、3年生になって希望するコースに所属する。(コースは10ある) 絵画コースでは油彩、日本画、版画のいずれで卒業研究をしたいかによって履習のしかたがちがう。油彩、日本画においてはそれぞれ卒業必要単位を充足するほどの授業が用意されているが、版画においては油彩、日本画の授業をかなりの数を受けねばならない。それは学群(他大学では学部)大学院を通じて専任が一人だけで授業数が少ないからである。

版画基礎2単位 版画実習A2単位
 版画実習B2単位 版画実習C2単位(学群)
 版画制作A2単位 版画制作B2単位
 絵画特別制作C2単位 (以上大学院)
 リトグラフ集中2単位、非常勤(学群大学院)

上記のように、4版種にわたって技術的にカバーしきれないうらみもあり、学習の絶対量の不足はいかんともしがたい。

このような状況が少しでも改善されるよう努力して来たが、昨年からは非常勤によるリトの集中を設けたのが精一杯で、専任の増員はのぞみずである。その割合には設備は整っているが、これを十分に管理し、活用しているとは言いがたい。助手、又は技官がいないので専任一人では手が回りかねるからである。

しかし版画を専修しようとする学生は、あらかじめこのような状況を知らされているので、それなりの意欲と覚悟を持って進んで来る。いわばハングリーな状況下でガンバリ、時には下級生の授業時に助手役をさせられたり、技術を独習して教官の不足分を授業面でカバーしてくれる学生まであらわれる。これも大学教育の一つのあり方と考えたい。

与えるだけでなく、自立学習せざるを得ない状況に追い込むことによって、将来、ねばり強く制作を続けるであろう作家に育てゆくことを期待しているのである。

▶第9回大学版画展

若月公平

第9回大学版画展が丸ノ内画廊に於いて、新日本造形(株)、丸ノ内画廊、日本版画保存会その他の協賛により、8月27日から9月8日まで開催された。ポスター、案内状、目録は事務手続き簡略化の為、事務局、武蔵野美術大学が制作した。アルバム制作は日本大学芸術学部にお願した。

出品校39校、122人の作品から22人を選び、摺り増しを加え44点の買い上げとなった。22点は版画保存会に保存して頂き、残り22点は協賛の会社にそれぞれ頂いてもらうことにした。去年と同様、A、Bの2グループに分けた展示となった。国際交流展が開催されなかった為か、少し寂しい気もしたが、去年と比べ作品数が多くなった点で見ごたえがあった。全体の感想として、年々、作品のサイズが大きくなる傾向にあるように思われた。

丸ノ内画廊の方々には、搬出入、飾りつけ等いろいろな御協力頂き、誠にありがとうございました。誌面を借りてお礼申し上げます。

丸ノ内画廊及び、各大学の協力を依り、スムーズに運営できました。この誌面を拝借して感謝の意を表します。

▶経過報告

池田良二

●昭和59年度総会

8月18日。東京丸ノ内画廊にて開催。

○第9回大学版画展の開催。出品校39校。総作品数123点。

○国際交流委員会の発足。有地好登、田村文雄、中林忠良、馬場構男各委員の承認。

○運営委員の承認。有地好登、稲田年行、小作青史、田村文雄、中林忠良、馬場構男、野田哲也、原健、吹田文明 事務局から清水昭八、池田良二、若月公平の12委員。

○会計監査委員の承認。斉藤寿一、宮下登喜雄両委員。

○会名についてのアンケート報告。

○会報編集委員、久保卓治氏から木村繁之氏(多摩美大)の引き継ぎの承認。

○会費、年額3000円に変更の承認。

●昭和59年度第3回臨時総会

12月3日。美術家会館。会議にて開催。

○59年度会計報告

○第9回大学版画展の報告と反省。会期の変更を希望する意見。ポスターの早期制作。学生作品を売却した際の手数料30%。

○アメリカ・タイラー美術学校との交流後の経過が馬場構男氏から報告。

○海外大学との交流展について、中林忠良氏から報告。

○各大学における版画教育現状調査の為の要項について事務局からの試案に対する検討。

○会報について園山晴己氏から報告と提案。

○会員の移動報告、入会申込者の承認。新会員に滝純一氏(福岡教育大)、奥井章夫氏(京都文教短大)。退会希望者の承認。松本宏氏(神戸大)。

▶会計報告

若月公平

昭和59年度大学版画研究会 決算報告

昭和58年11月1日～昭和59年10月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
1 前期繰越金	191,728	1 経費	
2 収入		A 通常経費	
・通常収入		事務費	17,050
・会費	324,000	会議費	23,240
・預金利息	2,323	交通費	3,780
・事業収入		通信費	125,630
・賛助会費	769,850		169,700
・アルバム代金	84,000	B 事業経費(展覧会)	
収入合計	1180,173	オープニング	80,940
		買上賞金	110,000
		アルバム制作費	254,605
		大学ネームプレート	39,600
		ポスター	60,000
		ポスター発送費	15,490
		目録	48,600
		ガラス修理	2,500
			611,735
		C 経費合計(A+B)	781,435
		2 次期繰越金D-C	590,466
D 合計	1371,901	D 合計	1371,901

▶大学版画研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は大学版画研究会と称する。
 第2条 本会は会員相互の協力により大学に於ける版画教育の進歩発展をはかることを目的とする。
 第3条 本会の事務所は大学の版画研究室におく。

第2章 事 業

- 第4条 本会は第2条の目的を達成するために下記の事業を行なう。
 1. 機関誌、出版その他、研究調査に関する事業
 2. 研究協議会の開催。
 3. 研究のための専門委員会または部会を設けることがある。
 4. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第3章 会 員

- 第5条 本会は会員を以って組織する。
 第6条 会員は大学に於て版画教育に関係する者で入会の手続きを完了した者とする。
 第7条 会員は別に定められた会費を納入しなければならない。

第4章 組織及び運営

- 第8条 本会の事業を運営するために次の役員をおく。
 1. 会 長 1 名
 2. 事務局長 1 名
 3. 運営委員 若干名
 第9条 会長は本会を代表する。
 第10条 事務局長は庶務、会計、事務を総括する。
 第11条 運営委員は事業、運営の企画を執行に当る。
 第12条 本会に名誉会員、相談役、顧問、賛助会員をおくことができる。
 第13条 役員は総会において選出する、任期は2年とし再任を妨げない。
 第14条 本会の会議は総会、運営委員会、専門委員会とする。
 1. 総会は年1回開き、本会の事業および運営に関する重要事項を審議決定する。会長は必要に応じて臨時総会を召集することができる。
 2. 専門委員会は内容に即して会長が召集し案件の作製、審議に当る。
 3. 運営委員会は会長が召集し、本会運営の企画に当る。

第5章 会 計

- 第15条 本会の経費は会費及び賛助会費をもってこれにあてて。

附 則

1. 第7条による会員の会費は年額3,000円とする。
 2. 運営のために必要な細則は別に定める。
 3. この会則は昭和59年8月18日よりこれを施行する。

▶名誉会員名簿

- 小野忠重 東京都杉並区阿佐ヶ谷北2-25-16
〒166
 女屋勘左衛門 東京都目黒区本町1-10-3
〒152
 小磯良平 兵庫県神戸市東灘区住吉町丸山御影グランドハイツ3-411
〒658
 末松正樹 東京都世田谷区奥沢2-17-22
〒158
 田中忠雄 東京都東久留米市学園町1-14-34
〒180-03
 平塚運一 7203 Connecticut Avenue chevy chase MD
20015USA
 福沢一郎 東京都世田谷区砧8-14-7
〒157
 村井正誠 東京都世田谷区中野1-6-12
〒158
 脇田 和 東京都世田谷区代田4-14-2
〒155

▶会員名簿

- 阿部 浩 相模原市東林間7-9-5
〒228 TEL 0427-42-3070 創 形
 相笠昌義 座間市立野台540
〒228 TEL 0462-54-0279 多摩美大
 相沢美則 杉並区久我山5-1-22
〒168 TEL 03-334-9521 文化学院
 青山光祐 山形市大字七浦497
〒990-21 山 形 大
 秋元幸茂 滋賀県大津市稲葉台13-10
〒520 TEL 0775-25-7927 滋賀大学
 朝比奈逸人 大阪府豊中市刀根山4-4 公務員住宅C-311
〒560 TEL 06-853-4269 大阪教育大
 天野純治 神奈川県三浦郡葉山町長柄1601-366
〒240-01 TEL 0468-75-8689 多摩美大
 有地好登 所沢市上安松221-1
〒359 TEL 0429-44-6538 日本大学芸術学部
 東谷武美 埼玉県上福岡市駒林436-3
〒356 TEL 0492-63-4779 一 般
 安間寛行 山口県吉敷郡小郡町大字上郷
〒754 山口芸術短大
 池田良二 武蔵村山市伊奈平5-43-3
〒190-12 TEL 0425-60-1165 武蔵野美大
 稲田年行 町田市三輪町1939
〒194-01 TEL 044-988-3339 岐 阜 大
 今井治男 金沢市清川町4-10 エンバーグリーン 犀川405号
〒920 TEL 0762-44-5603 金 沢 大
 伊東正悟 柏市逆井1668-99
〒270 TEL 0471-72-7830 造 形 大
 出原 司 京都市中京区姉小路堀川東入ル
〒604 TEL 075-221-5658 京 都 芸 大
 梅津 薫 北海道岩見沢市緑が丘4-221-90
〒068 TEL 01262-4-1975 北海道教育大
 梅津祐司 板橋区蓮沼7-7 ハスマアパルトマン
〒174 TEL 03-965-8918 芸 大
 梅沢和雄 大宮市植竹町1-537
〒330 TEL 0486-66-4238 芸 大

▶ 会員名簿

- 大塚恵子** 仙台市長町2-13-21
〒982 TEL 0222-48-6853 三島学園女子大
- 大槻紀雄** 京都市虹の丘1-18
〒980 三島学園女子大
- 大原雄寛** 京都市伏見区日野岡西町4-53
〒601-13 TEL 075-571-6271 成安女子短大
- 奥井章夫** 京都市左京区下鴨下川原町47
〒606 TEL 075-791-1668 京都文教短大
- 奥定一孝** 松山市東野5-1-19
〒790 愛媛大
- 小野克子** 昭島市西武蔵野1388
〒196 TEL 0425-43-0891 女子美大
- 小作青史** 世田谷区羽根木2-32-6
〒159 TEL 03-321-7221 多摩美大
- 小山松隆** 千葉県習志野市袖ヶ浦2-6-4-506
〒275 TEL 0474-74-6586 日本大学芸術学部
- 大本 靖** 札幌市中央区円山西町4911
〒064 TEL 011-611-0722 北海道教育大
- 太田 広** 神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-28 C-21号
〒241 TEL 045-371-2561 一般
- 岡部昌生** 札幌群島町字西の里379-211
〒061-11 札幌大谷女子短大
- 岡部徳三** 神奈川県秦野市渋沢158
〒259-13 TEL 0463-88-0743 一般
- 鎌谷伸一** 横浜市金沢区並木二丁目7-3-508
〒236 TEL 045-785-4703 芸大
- 神山泰治** 那覇市首里石嶺町4-173-11
〒903 TEL 0988-85-5814 琉球大
- 河西万丈** 山梨県大月市猿橋町殿上483-1
〒409-06 TEL 05542-2-6174 都留文科大
- 河内成幸** 多摩市桜々丘4-26-33
〒192-02 TEL 0423-71-4687 一般
- 川西祐三郎** 神戸市東灘区御影山手1-7-11
〒658 兵庫教育大、奈良教育大
- 加藤清美** 世田谷区桜上水1-10-3
〒156 女子美大
- 加藤れい子** 埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008
〒350-13 TEL 0429-53-9174 女子美大
- 加藤茂外次** 愛知県愛知郡長久手町長湫菖蒲池37-5中尾産業アパート301
〒480-11 TEL 05616-2-5404 名古屋造形芸術短大
- 加山又造** 横浜市鶴見区東寺尾5-3-29
〒230 TEL 045-573-6675 多摩美大
- 城所 祥** 八王子市本町35-6
〒192 TEL 0426-22-5857 武蔵野美術学園
- 北岡文雄** 杉並区和泉2-27-8
〒168 TEL 03-328-8361 武蔵野美術学園
- 清塚紀子** 板橋区上板橋2-48-2-808
〒173 TEL 03-955-2300 造形大
- 木村秀樹** 大津市比叡平3-10-5
〒520 嵯峨短大
- 木村希八** 鎌倉市山崎1350-4
〒248 TEL 0467-45-2223 一般
- 木村繁之** 国立市中1-17-2
〒186 TEL 0425-73-3025 多摩美大
- 久保卓治** 相模原市上鶴間7-8-1-519
〒228 TEL 0427-48-7769 多摩美大
- 小林清子** 川崎市宮前区野川4090-1 野川住宅2-403
〒213 TEL 044-751-0483 女子美大
- 小林次男** 日野市高幡566 高幡市営団地204号
〒191 TEL 0425-93-3273 東洋美術
- 小林基輝** 埼玉県三郷市早稲田1丁目13-10
〒341 TEL 0489-58-2031 女子美大
- 黒田茂樹** 横浜市金沢区六浦町303
〒236 TEL 045-781-4715 東洋美術
- 斎藤寿一** 川崎市幸区塚越3-375
〒210 TEL 044-522-2007 和光大
- 佐藤逸平** 鎌倉市台4-13-12
〒247 一般
- 佐藤行信** 武蔵野市吉祥寺東町2-6-10 和光荘6号
〒180 TEL 0422-21-8992 東洋美術
- 酒井忠臣** 福岡県宗像市田熊1254-35
〒811-34 TEL 09403-7-0728 九州産業大
- 笹本 純** 秋田市寺内見桜281-4 見桜住宅1-406
〒011 TEL 0188-33-5261 秋田大
- 坂田和之** 静岡県藤枝市若王子2-14-10
〒426 TEL 0546-43-5921 常葉短大
- 設楽知昭** 愛知県久手町岩作字三ヶ峰1-1 大学教員住宅4-4
〒480-11 TEL 05616-2-7447 愛知芸大
- 嶋 剛** 大津市御陵町1-3 別所合同宿舍1011
〒520 滋賀大
- 清水昭八** 小金井市梶野町4-16-27
〒184 TEL 0423-83-3733 武蔵野美大
- 清水 敦** 札幌市豊平区月寒東十条16丁目5-2
〒 北海道女子短大
- 島田章三** 名古屋市昭和区高峰町143-18
〒466 TEL 052-832-9385 愛知芸大
- 白井嘉尚** 藤枝市仮宿664 静大宿舍1235
〒426 TEL 0546-43-5347 静岡大
- 白木俊之** 茨城県新治郡桜村梅園2-8-13
〒305 TEL 0298-52-0710 筑波大
- 園山晴己** 世田谷区野毛2-19-2
〒158 TEL 03-701-6563 造形大
- 傍嶋康博** 千葉県船橋市喜野井4-8-14
〒274 TEL 0474-63-3240 都留文科大
- 田中 孝** 大津市比叡平3丁目10の8
〒520 TEL 0775-29-0530 京都精華大
京都芸大
- 田村文雄** 小平市学園西町2-12-8
〒187 TEL 0423-43-7282 女子美大
- 武市 勝** 山口県山口市大内御堀2980-6
〒747-13 山口大
- 高橋貴和** 宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1
〒981-12 一般
- 高山 登** 仙台市鈎取上野山14-663
〒980 TEL 0222-43-2605 宮城教育大
- 滝 純一** 宗像市宗像町日里5-1-4-402
〒 福岡教育大
- 滝沢光広** 愛知県一宮市大和町代永1219
〒491 TEL 0586-44-3330 名古屋造形短大
- 多田益也** 広島県五日市町五月ヶ丘3-14-6
〒738-08 一般
- 長宗部友子** 大津市比叡平3丁目42-14
〒520 TEL 0775-29-0376 成安女子短大
- 津地威沢** 徳島市中吉野町3-11-3
〒770 徳島大
- 辻 親造** 名古屋市市中村区稲葉地町7-1
〒453 名古屋造形芸術短大
- 燈野寿蔵** 愛媛県伊予市灘町4丁目
〒799-21 一般
- 永井研治** 八王子市市安町1-29-1
〒192 TEL 0426-44-4476 武蔵野美大

▶ 会員名簿

- | | | | | | |
|-------|--|---------------|-------|--|------------------|
| 中林忠良 | 埼玉県上福岡市駒林437
〒356 TEL 0492-63-1970 | 芸 大 | 丸山浩司 | 福島県蓬萊町68-34-3
〒960 TEL 0245-49-0903 | 福 島 大 |
| 西 真 | 京都市北区平野上柳町28-21
〒603 | 嵯峨短大 | 馬淵 聖 | 神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511
〒253 TEL 0467-51-1497 | 一 般 |
| 野沢博行 | 岡崎市明大寺町字狐塚1-2サンハイツ岡崎A-407
〒444 | 愛知教育大 | 皆川孝一 | 東久留米市神宝町1-8-8
〒180-03 | 日本大学芸術学部 |
| 野田哲也 | 小金井市本町3-14-14
〒184 TEL 0423-81-9371 | 芸 大 | 宮田克人 | 高知県高知市小津町10-41-532号
〒780 | 高 知 大 |
| 長谷川光輝 | 鎌倉市二階堂851
〒248 TEL 0467-25-1459 | 一 般 | 宮下登喜雄 | 府中市新町1-12
〒183 TEL 0423-61-5634 | 学 芸 大
福岡教育大 |
| 馬場 章 | 川崎市宮前区宮崎1-5-23 峰尾ビルB-203
〒213 TEL 044-855-8217 | 女子美大 | 武蔵篤彦 | 名古屋市区西木2-34-3
〒452 TEL 052-502-1472 | 名古屋芸大 |
| 馬場橋男 | 横浜市金沢区富岡町1197-186
〒236 TEL 045-772-1770 | 造 形 大 | 三木淳史 | 市川市平田1-13-2
〒272 TEL 0473-22-1948 | 日本大学芸術学部 |
| 萩原英男 | 中野区上高田5-33-8
〒164 TEL 03-386-0192 | 学 芸 大 | 村上文生 | 京都市右京区太秦原面影町6-1
〒616 | 嵯峨短大 |
| 橋本文良 | 京都市北区紫竹西北町33-12
〒603 | 京都精華大 | 村上善男 | 弘前市御幸町128-19 北奥舎
〒036 | 一 般 |
| 浜西勝則 | 秦野市千村742-15 小田急渋沢ハイイツ1-508
〒259-13 TEL 0463-87-3779 | 東 海 大 | 森 俊夫 | 京都府綴喜郡宇治田原町大字岩山小字丸山1-40
〒610-02 | 京都文京短大 |
| 原 健 | 世田谷区野沢3-13-17
〒154 TEL 03-421-2980 | 造 形 大
芸 大 | 森 正一 | 静岡市西千代田町1-17
〒420 | 常 業 大 |
| 平川晋吾 | 宇都宮市峰町350
〒150 | 宇都宮大 | 山下哲郎 | 福岡市東区香住ヶ丘2-23-11
〒813 | 九州産業大 |
| 広畑正剛 | 世田谷区赤堤3-5-2
〒156 TEL 03-324-0532 | 玉 川 大 | 柳楽節子 | 兵庫県神戸市長田区上池田3-11-12
〒653 TEL 078-691-8354 | 兵庫女子短大 |
| 深尾庄介 | 世田谷区下馬3-17-2
〒154 TEL 03-414-6034 | 造 形 大
跡見短大 | 山中 現 | 北区田端1-30-4
〒114 | 芸 大 |
| 深沢幸雄 | 千葉県市原市鶴舞308
〒290-04 TEL 0436-88-2034 | 多摩美大 | 山野辺義雄 | 町田市広袴443-10
〒194-10 TEL 0427-34-5117 | 東 海 大 |
| 福岡泰彦 | 狭山市入間川4-25-23 ハウス2006
〒350-13 TEL 0429-53-7027 | 上越教育大学 | 山本文彦 | 茨城県新治郡桜村天久保 芸術専門学都内
〒300-31 | 筑 波 大 |
| 吹田文明 | 世田谷区砧3-33-4
〒157 TEL 03-417-7123 | 多摩美大 | 山本富章 | 愛知県愛知郡長久手町岩作三ヶ峰1-1 芸大第3住宅3-5
〒480-11 TEL 05616-2-7526 | 愛知芸大 |
| 深草廣平 | 佐賀市本庄町西寺小路884-3
〒840 TEL 0952-22-1751 | 佐 賀 大 | 山本容子 | 大津市比叡平3丁目10の8
〒520 TEL 0775-29-0350 | 成安女子短大 |
| 府川 誠 | 平塚市平塚1037
〒254 TEL 0463-33-0210 | 創 形 | 山口純寛 | 文京区千駄木5-19-3 薬山マンション302
〒113 TEL 03-821-8096 | 芸 大 |
| 星野美智子 | 杉並区善福寺1-14-10
〒167 TEL 03-390-5517 | 女子美大 | 横田嘉雄 | 岐阜市日野3968-352
〒500 TEL 0582-47-6552 | 山田学園家政短大 |
| 藤岡 慎 | 横浜市戸塚区上郷町1707-19
〒247 TEL 045-894-4923 | 多摩美大 | 吉田 東 | 福岡市南区大字塩原226
〒815 TEL 092-541-1431 | 九州芸工大 |
| 筆塚稔尚 | 所沢市上新井784-4
〒359 | 芸 大 | 吉原英雄 | 大阪府高槻市塚原6-18-14
〒569 TEL 0726-96-2286 | 京都芸大 |
| 細田政義 | 世田谷区祖師ヶ谷3-39-8
〒157 TEL 03-482-3052 | 女子美大 | 吉田穂高 | 三鷹市井ノ頭1-13-40
〒181 TEL 0422-44-3923 | 女子美大
日本大学芸術学部 |
| 堀井英男 | 八王子市宇津木町940-79
〒192 TEL 0426-45-3756 | 創 形 | 吉本 弘 | 愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ7-97
〒470-01 TEL 05617-2-3565 | 愛知芸大 |
| 前川 直 | 岩手県盛岡市茶畑1丁目1-6-411
〒020 | 岩 手 大 | 寥 修平 | 284 CENTER STREET ENGLEWOOD CLIFFS, N.J.
07632 TEL 201-871-0554 SETON HALL UNIVERSITY | |
| 舞原克典 | 守山市川田町1548-13
〒524 TEL 07758-3-0028 | 京都芸大 | 若生秀二 | 日野市旭ヶ丘1-20-19 泰山荘C-201
〒191 TEL 0425-83-0481 | 造 形 大 |
| 松川幸寛 | 長野県松本市笹賀4359 菅野ハイイツ2F
〒201 TEL 0263-86-3790 | 松本短大 | 渡辺達正 | 八王子市鹿島22-1-208
〒192-03 TEL 0426-75-1655 | 多摩美大 |
| 松浦 昇 | 岐阜県大垣市上面二丁目堤唐
〒503 | 大垣女子短大 | 渡辺 満 | 川崎市多摩区栗木台3-5-1 コーポ若草
〒229 TEL 044-987-2937 | 一 般 |
| 松島順子 | 大田区田園調布4-29-25
〒145 TEL 03-721-3062 | 女子美大 | 渡辺明信 | 文京区向ヶ丘1-2-5
〒113 TEL 03-813-9050 | 文化学院 |
| 松本 宏 | 神戸市東灘区満森台3-19-7
〒658 TEL 078-841-7336 | 神 戸 大 | 若月公平 | 東村山市美住町2-11-1 小山マンション10E
〒189 TEL 0423-91-6407 | 武蔵野美大 |

▶賛助会員名簿

- 新日本造形 中野区新井1-42-8
〒165 TEL 03-389-1221
- サクラクレパス 千代田区神田三崎町3-1-16
〒101 TEL 03-263-4221
- ヌーベルセンター 千代田区神田三崎町3-1-16
クレパスビル内ヌーベル
〒101 TEL 03-262-4221
- 大阪フォルム画廊 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階
〒104 TEL 03-571-0833
- 日本版画保存会 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方
〒214 TEL 044-911-9041
- 渡辺木版美術画舗 中央区銀座8-6-19
〒104 TEL 03-571-4684
- 山田商会 中央区八重洲2-6-10
〒104 TEL 03-281-1667・8537
- レッドランタン版画舗 京都市東山区新門前通り仲之町236
〒605 TEL 075-561-6314
- 萩原市蔵商店 千代田区神田紺屋町43
〒101 TEL 03-256-3591
- 芸大画翠 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内
〒100 TEL 03-821-7056
- 光村図書出版 品川区上大崎2-19-9
〒141 TEL 03-493-2111
- ペンテル 千代田区東神田2-1-6
〒101 TEL 03-866-6161
- マルチプルアートセンター
(乃村工芸) 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社
〒108 TEL 03-455-1171
- ギャラリーカプセル 中央区銀座8-16-10 B401 堀江強志
〒104 TEL 03-541-4676
- 丸の内画廊 千代田区丸の内3-2-3 富士ビル1F
〒100 TEL 03-213-8705
- びけん(本店) 世田谷区尾山台3-33-5
〒158 TEL 03-702-2118
- 梶原商店 渋谷区上原2-33-8
〒151 TEL 03-466-6117
- 文房堂 千代田区神田神保町1-21
〒101 TEL 03-291-3441
- 日動画廊 中央区銀座5-3-16
〒104 TEL 03-571-2553
- 画荘ヴィナス 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内
〒160 TEL 03-346-2728
- 画箋堂 京都市下京区河原町五条上ル
〒600 TEL 075-791-6131
- クラタ商店 大阪市鶴見区茨田諸口町1118
〒538 TEL 06-911-6561
- 酒井民雄 大垣市郭町3丁目 酒井書店
〒503
- 菊田商店 文京区本駒込3-8-2
〒113 TEL 03-821-7131
- 武蔵野美術学園 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
〒180 TEL 0422-22-8171
- シロタ画廊 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階
〒104 TEL 03-572-7971~2
- 養清堂画廊 中央区銀座5-5-15
〒104 TEL 03-571-2471
- 阿部出版版画芸術 目黒区上目黒4-30-12
〒153
- 日本オリビエ 港区赤坂1-1-2 フランス銀行ビル内
〒107 TEL 03-582-0871 (順不同)

▶編集後記

久保卓治氏より編集を引き継ぎ、意気込んでみたものの、経験不足から右往左往するのも度々で、他の編集スタッフにかなり迷惑をかけてしまいました。なんとか発行できて、ホッとしております。

今回は、特に版種を限定せず、編集しましたが、予想より多く原稿が集まり、全部を掲載出来ないほどでした。

編集方針としては、より専門的な記事を載せようということで、これからもその線で、記事を集めて行くつもりです。ただ、今回は、私自身の不慣れもあって、今までの編集構成を取らせてもらい、次号から、私達なりの、会報のカラーを打ち出して行こうと思っております。

これからも会員の皆様の御協力を、お願いする次第です。 (園山記)

大学版画研究会 会報第13号 1985年4月

編集スタッフ、池田良二/木村繁之/小林次男/
園山晴己/若月公平

発行 大学版画研究会
印刷 新日本造形株式会社・有限会社 西川

